



表 9.9-8(9) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）



科名	バラ科		
種名	ナガボノアカワレモコウ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	北海道、本州、四国、九州		確認个体
形態・生育場所	<p>【形態】高さ1～1.5mの多年草。葉は、多数の小葉から成る奇数羽状複葉で、表面に光沢がある。小葉は長楕円状線形で、縁には粗い鋸歯がある。</p> <p>【主な生育環境】低地～山地で、ヌマガヤ等が生育する日当たりのよい湿原、水田周辺の土手、河川堤防の草地等。</p>		
県内での生育状況	県の南部・東部の荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に広く分布		
現地確認状況	<p>夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森のセイタカアワダチソウの草地で1例が確認され、開花が見られた。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の草地で4例が確認され、蕾が見られた。</p> <p>（ワレモコウ属の一種）</p> <p>初夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で約200例、綾瀬川の河川敷の湿地2箇所計約90例が確認された。</p> <p>夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で約200例、綾瀬川堤防上の道路際で約20例、綾瀬川の河川敷の草地で約300例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地で約200例が確認された。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成24年、埼玉県）

：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」



（平成30年、栃木県）

表 9.9-8(10) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	ウリ科		
種名	ゴキヅル		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	本州、四国、九州		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】1年生のつる植物。葉は互生。雌雄同株。花は8-11月に咲き果実は熟すと蓋を開けるように真ん中で割れ、扁平な種が2個落ちる。</p> <p>【主な生育環境】河川敷、池沼の周辺の水辺に見られる。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	加須・中川低地に分布		
現地確認状況	<p>夏 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地2箇所計13例、調査範囲南東側の湿地2箇所計15例が確認された。</p> <p>秋 季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿地2箇所計38例、調査範囲南東側の湿地2箇所計約51例が確認され、開花、結実が見られた。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成24年、埼玉県）
 ：「岐阜県レッドデータブック（植物編）改訂版準絶滅危惧（1）」（岐阜県ホームページ）

表 9.9-8(11) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）



科名	アカバナ科		
種名	ウスゲチョウジタデ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	準絶滅危惧	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	本州（関東以西）、四国、九州、沖縄		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】一年草。茎は直立し、高さ 15～100cm になり、細毛がある。葉は互生する。花弁がある。雄しべはふつう 5 個。</p> <p>【主な生育環境】低地の日当たりのよい水田や湿地。</p>		
	確認環境		
県内での生育状況	加須・中川低地～台地帯に分布している。		
現地確認状況	秋 季：対象事業実施区域外のクワイ畑や水田の畔の 3 箇所です約 90 例が確認された。		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）

：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」


（平成 30 年、栃木県）

表 9.9-8(12) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	アリノトウグサ科		
種名	ホザキノフサモ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	絶滅危惧 I B 類	
分布状況	全国に分布する。		確認个体
形態・生育場所	<p>【形態】多年草。沈水性の水生植物。草長 30～150 cm。茎の各節に長さ 1～3 cm の葉が 4 枚輪生する。葉身は羽状に細裂し、各羽片は糸状。6～9 月、茎頂から花柄を伸ばし、水面に穂状花序を抽出する。花序は長さ 3～10 cm で上部には雄花、下部には雌花をつける。花弁はないが、雄花には紅色の花被がある。フサモに似ているが、花序に気中葉を生じない点異なる。</p> <p>【主な生育環境】湖沼、ため池、河川に生育する。</p>		
県内での生育状況	加須・中川低地に分布		確認環境
現地確認状況	春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川で 1 例が確認された。		



資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）
 ：「レッドデータブックふくしま I 植物・昆虫類・鳥類」（福島県ホームページ）

表 9.9-8(13) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	サクランウ科		
種名	ヌマトラノオ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	準絶滅危惧	
分布状況	本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国、台湾、インドシナにも見られる。		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】 高さ 40～70cm。茎は直立し、円柱状で赤みを帯び、ときに枝分かれする。葉は比較的密に互生して、柄はなく、長さ 4～7cm で細長い。先は短くとがり、両面にはほとんど毛がなく、腺点が散生する。枝分かれした茎の先に直立した総状花序をつける。</p> <p>【主な生育環境】河川敷、休耕田等の湿性の草地に生育する。</p>		
県内での生育状況	低地帯～丘陵帯に広く分布する。		確認環境
現地確認状況	<p>秋 季：対象事業実施区域外、調査範囲南東側の綾瀬川の河川敷で 12 例が確認された。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の湿地で 30 例が確認された。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）
：「日本野生植物館 WILD PLANTS OF JAPAN」（平成 9 年、小学館）

表 9.9-8(14) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	ゴマノハグサ科		
種名	カワヂシャ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	準絶滅危惧	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	本州、四国、九州、沖縄		確認个体
形態・生育場所	<p>【形態】超年草。茎は30～50cm。葉は柄がなく、長楕円状披針形で、長さ4～7cm、幅8～15cmになり、縁には小さいが明瞭な鋸葉がある。花は薄く紅色を帯びるが、ほぼ白色に近い。</p> <p>【主な生育環境】日当たりのよい河岸、水路、休耕田。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	低地帯～丘陵帯にかけて湿った場所に分布する。		
現地確認状況	<p>初夏季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の水際で1例が確認され、開花・結実が見られた。</p> <p>春季：対象事業実施区域外の綾瀬川の水際4箇所です計48例、綾瀬の森の綾瀬川の水際で3例が確認され、開花、結実が見られた。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成24年、埼玉県）

：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」

（平成30年、栃木県）

表 9.9-8(15) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	ヒルムシロ科		
種名	イトモ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	準絶滅危惧	
	埼玉県	絶滅危惧Ⅱ類	
分布状況	北海道、本州、四国、九州、沖縄		確認個体
形態・生育場所	<p>【形態】多年生の沈水植物。細い地下茎が横走り、1節おきに水中茎を伸ばす。沈水葉は線形、無柄、やや鋭頭。</p> <p>【主な生育環境】低地帯の澄んだ溜池や沼。</p>		
県内での生育状況	低地帯～丘陵帯に分布している。		
現地確認状況	春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川で1例が確認された。		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）
 「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」（平成 30 年、栃木県）

表 9.9-8(16) 保全すべき種の生態及び確認状況（植物相）

科名	カヤツリグサ科		
種名	ウマスゲ		
重要性	文化財	—	
	保存法	—	
	環境省	—	
	埼玉県	準絶滅危惧	
分布状況	本州（関東以西）、四国、九州		確認个体
形態・生育場所	<p>【形態】多年草。稈は叢生するが、長い走出枝を出す。ヤマクボスゲに似るが、葉はより厚くて軟らかい。</p> <p>【主な生育環境】低地帯の河畦の低沼地。</p>		
			確認環境
県内での生育状況	低山西、丘陵北、丘陵南、荒川西台地、大宮台地、加須・中川低地に分布する。		
現地確認状況	<p>初夏季：対象事業実施区域外の綾瀬の森の湿った林縁で約 30 例が確認され、結実が見られた。</p> <p>春 季：対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷の湿地で約 100 例、綾瀬の森の綾瀬川の水際 3 箇所計 143 例が確認され、結実が見られた。</p>		

資料：「埼玉県の希少野生生物 埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」（平成 24 年、埼玉県）

：「レッドデータブックとちぎ 2018 栃木県の保護上注目すべき地形・地質・野生動植物」

（平成 30 年、栃木県）

イ 植生の状況

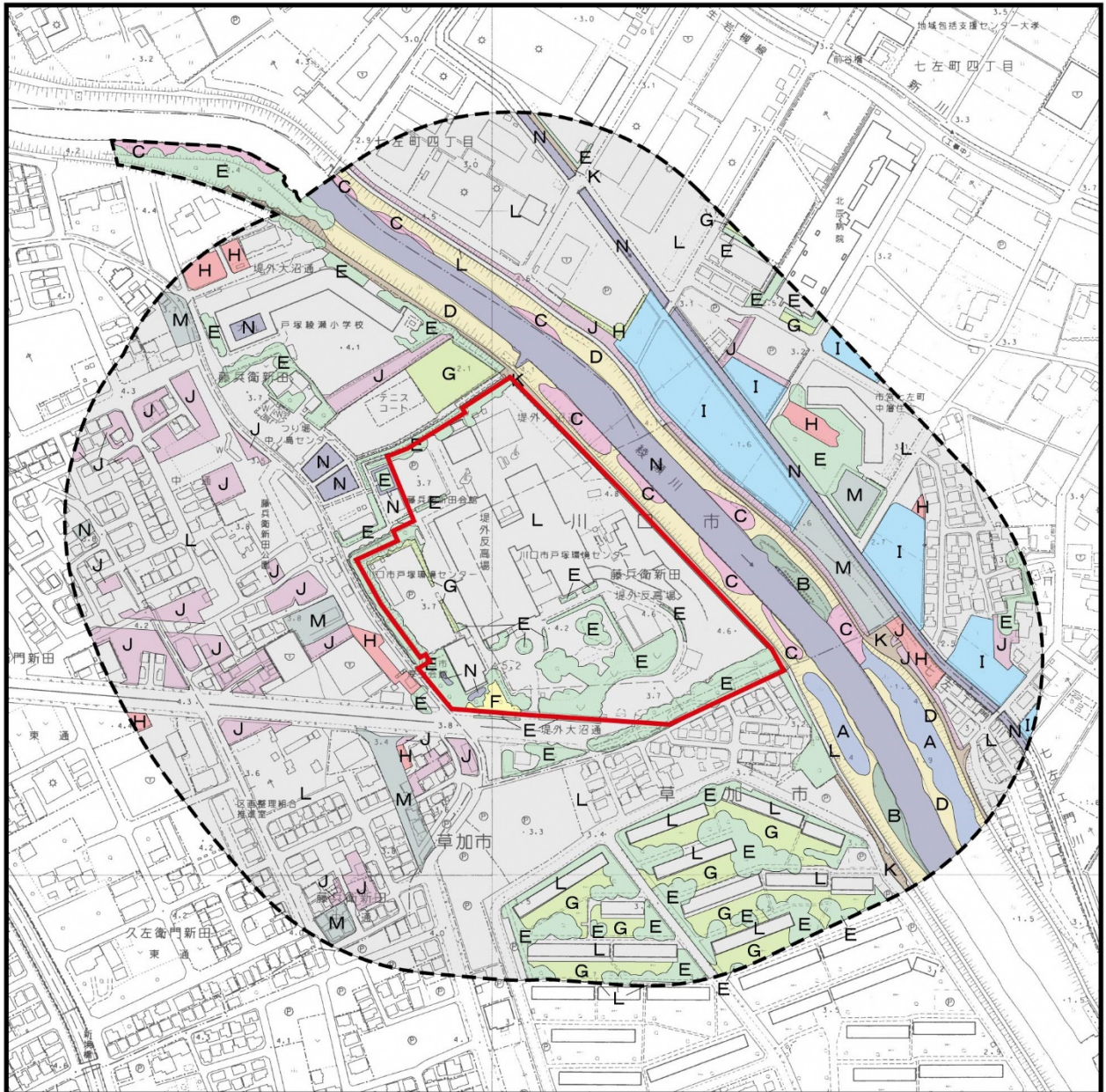
現地調査の結果、4つの代償植生、7つの植林地・耕作地植生、3つのその他の区分の計14区分が確認された。確認された植生一覧は表9.9-9に、植生図は図9.9-3に示すとおりである。

対象事業実施区域内の大部分は市街地などであり、植生群落等は、植林地・耕作地植生である植栽、竹林、管理草地、開放水域が存在している。

表 9.9-9 植生一覧

番号	区分	群落名	優占種
A	代償植生	チガヤーチゴザサ群落	チガヤ
B		ヨシ群落	ヨシ
C		アレチウリーオオオナモミ群落	アレチウリ
D		クワモドキーセイバンモロコシ群落	セイバンモロコシ
E	植林地・耕作地植生	植栽	ソメイヨシノ、ケヤキ、コナラ等
F		竹林	モウソウチク、スダジイ、サツキ
G		管理草地	ムラサキツメクサ
H		畑地雑草群落	ナス、ゴウシュウアリタソウ、スベリヒユ
I		水田雑草群落	イネ、アオウキクサ、クワイ
J		荒地雑草群落	チガヤ、キクイモ、ムラサキツメクサ
K		路傍雑草群落	ホソムギ、ムラサキツメクサ
L	その他	市街地など	—
M		造成地	—
N		開放水域	—

注) 表中の記号は、図9.9-3に対応する。



: 対象事業実施区域

: 調査範囲

I 代償植生

- A チガヤ-チゴザサ群落
- B ヨシ群落
- C アレチウリ-オオオナモミ群落
- D クワモドキ-セイバンモロコシ群落

II 植林地・耕作地植生

- E 植栽
- F 竹林
- G 管理草地
- H 畑地雑草群落
- I 水田雑草群落
- J 荒地雑草群落
- K 路傍雑草群落

III その他

- L 市街地など
- M 造成地
- N 開放水域

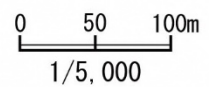


図 9.9-3 植生図

ウ 緑被率または緑視率等を指標とした緑の量

(ア) 緑被率

現地調査の結果、調査範囲内の緑被率は 31.1%、対象事業実施区域の緑被率は 21.9%であった。緑被率の結果は表 9.9-10 に示すとおりである。

緑の量としてカウントした群落等は、チガヤーチゴザサ群落、ヨシ群落、アレチウリーオオオナモミ群落、クワモドキーセイバンモロコシ群落、植栽、竹林、管理草地、畑地雑草群落、水田雑草群落、荒地雑草群落及び路傍雑草群落とした。

表 9.9-10 緑の量（緑被率）


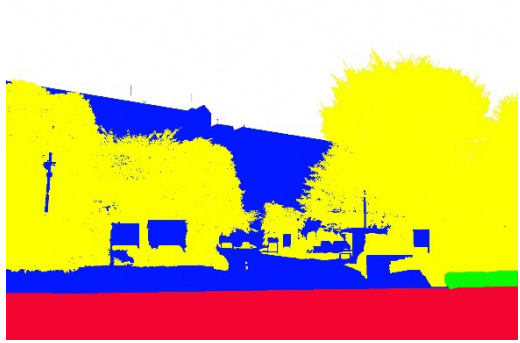

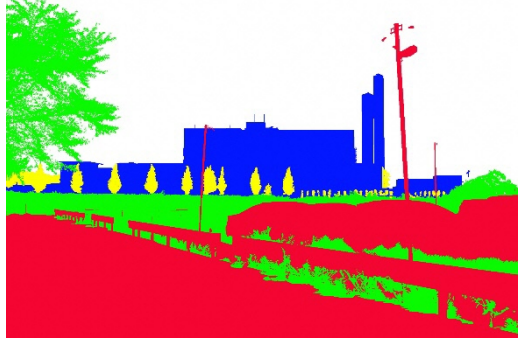
調査項目	番号	群落名	調査範囲		対象事業実施区域		
			面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	
緑の量（緑被率）	A	チガヤーチゴザサ群落	0.4	1.1	0.0	0.0	
	B	ヨシ群落	0.2	0.5	0.0	0.0	
	C	アレチウリーオオオナモミ群落	0.4	1.2	0.0	0.0	
	D	クワモドキーセイバンモロコシ群落	1.5	4.1	0.0	0.0	
	E	植栽	3.8	10.4	1.0	20.2	
	F	竹林	0.1	0.1	0.1	1.0	
	G	管理草地	1.1	3.0	0.0	0.6	
	H	畑地雑草群落	0.3	0.9	0.0	0.0	
	I	水田雑草群落	1.5	4.1	0.0	0.0	
	J	荒地雑草群落	1.6	4.5	0.0	0.0	
	K	路傍雑草群落	0.4	1.2	0.0	0.0	
		緑地面積/緑被率		11.3	31.1	1.1	21.9
	その他の区分の面積			25.0	68.9	3.8	78.2
合 計			36.3	100.0	4.8	100.0	

注) 面積は小数点第一位までの表記としており、端数処理を行っているため合計面積及び割合は一致しない。

(イ) 緑視率

現地調査の結果、No.1 地点からの眺望景観の緑視率は 41.0%、No.2 地点からの眺望景観の緑視率は 17.3%であった。緑視率の結果は表 9.9-11 に示すとおりである。

表 9.9-11 緑の量 (緑視率)

地点	緑の視認状況	緑視率
No.1	環境センター南	
		 【緑視率： 約 41.0%】
No.2	北辰病院駐車場付近	
		 【緑視率： 約 17.3%】

注) 緑視率の色分けの凡例
 黄色：対象事業実施区域内の緑
 緑色：対象事業実施区域外の緑
 青色：対象事業実施区域内の構造物
 赤色：対象事業実施区域外の構造物
 白色：その他

9.9.2 予測

(1) 工事の実施及び施設の存在に伴う植物への影響

1) 予測内容

ア 保全すべき種、植生及び保全すべき群落

造成等の工事の実施及び施設の存在に伴う保全すべき種、植生及び保全すべき群落の生育地の改変の程度及びその他の生育環境への影響の程度を予測した。

イ 緑被率または緑視率等を指標とした緑の量

造成等の工事の実施及び施設の存在に伴う緑の量（緑被率及び緑視率）の変化の程度を予測した。

2) 予測地域・地点

予測地域は、現地調査における調査範囲と同様の範囲とした。

予測地点は、予測地域全域とした。

なお、対象事業実施区域内における造成工事の範囲（改変される範囲）は図 9.9-4 に示すとおりである。

3) 予測対象時期等

工事中については、保全すべき種、植生及び保全すべき群落への影響が最大と考えられる時期として、造成工事の範囲が最大となる時期とした。

存在・供用時については、保全すべき種、植生及び保全すべき群落並びに緑の量への影響を的確に把握できる時期として、新施設の供用時の周辺環境が安定した時期とした。

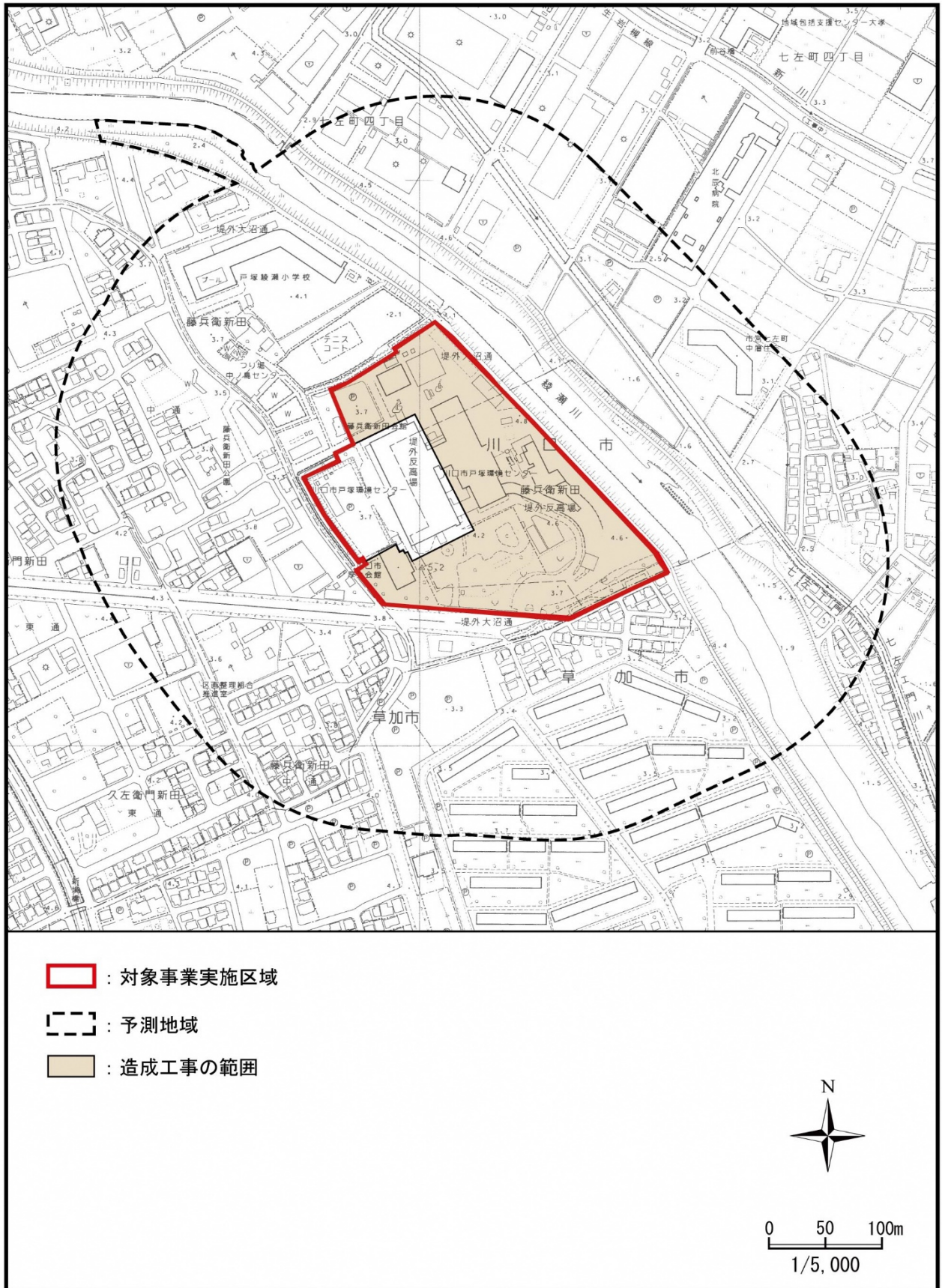


図 9.9-4 予測地域及び造成工事の範囲

4) 予測方法

ア 保全すべき種、植生及び保全すべき群落

工事中については、本工事計画に基づき保全すべき種、植生及び保全すべき群落の生育環境の変化の程度を把握したうえで、類似事例または既存知見を参考にして定性的に予測した。

存在・供用時については、本事業計画に基づき植生及び地形の改変内容と保全すべき種、植生及び保全すべき群落の生育確認位置との重ね合わせ等により定量的に予測した。

イ 緑被率または緑視率等を指標とした緑の量

存在・供用時について、本事業計画と調査結果との重ね合わせ等により定量的に予測した。

(ア) 緑被率

事業計画に基づく緑地計画と、現地調査による植生図との重ね合わせにより、定量的に予測した。

(イ) 緑視率

後掲「9.11 景観 9.11.2 予測」において示す主要な眺望景観の予測結果（現況、将来）を基にして、フォトモニタージュ上の緑の割合を計測し、定量的に予測した。

5) 予測条件

ア 工事中の環境保全計画

建設機械の稼働及び資材運搬等の車両に関連する騒音・振動対策、水質汚濁防止対策等の工事中の環境保全計画は前掲「第2章対象事業の目的及び概要 2.3 対象事業の概要 (5) 工事の概要 3) 工事に係る環境保全計画」に示すとおりである。

イ 存在・供用時の環境保全計画

(ア) 緑化計画

供用時における緑化計画は、前掲「第2章対象事業の目的及び概要 2.3 対象事業の概要 (4) 対象事業で整備する施設の概要 14) 緑化計画」に示すとおりである。

6) 予測結果

ア 植物の生育環境の変化

植物種において、本事業で想定される影響の概要は表 9.9-12 に示すとおりである。

表 9.9-12 本事業で想定される影響の概要

影響の種類	想定される影響	工事中	存在・供用時	影響要因	影響を受ける生育環境
直接的な影響	生育環境の消失	○	△	(工事中) ・造成等の工事 (存在・供用時) ・施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・群落の消失や生育環境の面積減少といった直接的な影響が想定される。 ・存在・供用時は、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」(平成18年3月)に記載された在来種を中心に植栽され、高木、中・低木を組み合わせ多層構造となるように植樹することから、影響は小さいと考えられる。
間接的な影響	水質の変化	—	/	(工事中) ・造成等の工事	<ul style="list-style-type: none"> ・工事中は濁水が発生するが、仮設沈砂槽等により、土粒子を沈降させ、上澄みを排水する計画である。仮設沈砂槽等を経由した排水の水質(SS)は、綾瀬川の現地調査結果の水質と同程度以下にすることから、「埼玉県条例施行規則の排水基準」を遵守でき、綾瀬川の水質(SS)を悪化させないものと予測される。また、工事中に発生するアルカリ排水及び有害物質の汚染のおそれがある地下水は公共下水道に排水することから、綾瀬川の水質を悪化させない。したがって、間接的な影響はないと考えられる。
	光環境の変化	×	×	(存在・供用時) ・施設の存在	<ul style="list-style-type: none"> ・建設機械の稼働時間及び資材運搬等の車両の運行時間は原則として午前7時から午後6時までの時間であることから、夜間において照明による光環境の変化はないかあっても極めて小さいと考えられる。 ・高層建築物の建設予定はなく、高所からの照明による影響は想定されない。対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、対象事業実施区域内の照明による植物の生育環境への影響は極めて小さいと考えられる。

注) 表中の凡例

○：影響が想定される。

△：影響はあるが、最大となる影響は一時的であり、影響は小さいと考えられる。もしくは、工事計画や事業計画から、影響は小さいと考えられる。

×：本事業では影響は限定的であり、影響は極めて小さいと考えられる。

—：影響はないと考えられる。

イ 各種の予測結果

保全すべき種の予測結果の概要は表 9.9-13 に、保全すべき種ごとの予測結果は表 9.9-14(1)～(17)に示すとおりである。

表 9.9-13 保全すべき種の予測結果の概要

分類	種名	保全すべき種 選定根拠	確認例数		主な生育環境の面積			影響の 大きさ
			対象事業実施区域		現況 (ha)	消失 (ha)	割合 (%)	
			内	外				
植物	コハナヤスリ	埼玉県：EN	0	約 300	5.8	0	0	×
	ミズワラビ	埼玉県：NT	0	17	1.5	0	0	×
	シロバナサクラタデ	埼玉県：NT	0	5	5.8	0	0	×
	コギシギシ	環境省：VU 埼玉県：VU	0	約 54	1.7	0	0	×
	マツモ	埼玉県：VU	0	1	2.3	0 ^{注2)}	0 ^{注2)}	×
	コイヌガラシ	環境省：NT 埼玉県：NT	0	7	1.7	0	0	×
	タコノアシ	環境省：NT 埼玉県：VU	0	約 180	7.5	0	0	×
	ナガボノシロワレモコウ	埼玉県：NT	0	約 170	7.5	0	0	×
	ナガボノアカワレモコウ	埼玉県：VU	0	5	7.5	0	0	×
	ワレモコウ属の一種	埼玉県：NT/VU	0	約 1,010	7.5	0	0	×
	ゴキヅル	埼玉県：VU	0	約 117	7.5	0	0	×
	ウスゲチョウジタデ	環境省：NT 埼玉県：VU	0	約 90	1.7	0	0	×
	ホザキノフサモ	埼玉県：EN	0	1	2.3	0 ^{注2)}	0 ^{注2)}	×
	ヌマトラノオ	埼玉県：NT	0	42	1.7	0	0	×
	カワヂシャ	環境省：NT 埼玉県：VU	0	52	4.0	0 ^{注2)}	0 ^{注2)}	×
	イトモ	環境省：NT 埼玉県：VU	0	1	2.3	0 ^{注2)}	0 ^{注2)}	×
	ウマスゲ	埼玉県：NT	0	約 273	1.7	0	0	×

注 1) 保全すべき種の選定根拠となる法令・文献及び評価区分は前掲表 9.9-5 のとおりである。

2) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生育環境ではないため、改変区域内の生育環境から除外した。

3) 表中の凡例

○：影響が想定される。

△：影響はあるが、最大となる影響は一時的であり、影響は小さいと考えられる。もしくは、工事計画や事業計画から、影響は小さいと考えられる。

×：本事業では影響は限定的であり、影響は極めて小さいと考えられる。

—：影響はないと考えられる。

表 9.9-14(1) 保全すべき種の予測結果（コハナヤスリ）

項目	内容				
主な生育環境	明るい草地等に群落を作り生育している。				
	予測地域 (ha)	5.8	変更区域内 (ha)	0	予測地域に対する 消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外、戸塚環境センター北側のテニスコート脇の草地で約 300 例が確認された。				
	対象事業 実施区域内	0 例	対象事業 実施区域外	約 300 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたコハナヤスリは約 300 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、明るい草地等である。事業実施区域内に乾性草地（管理草地）が存在するが、変更区域には含まれないことから、事業の実施に伴う変更等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置

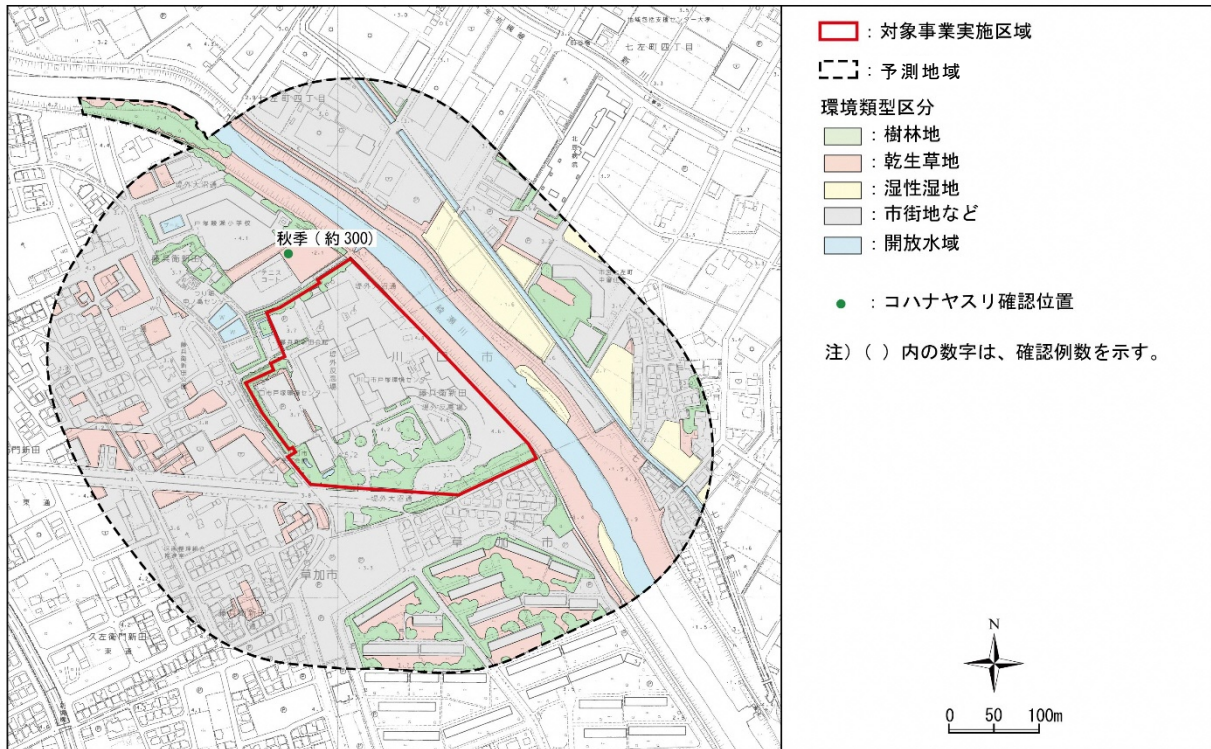


表 9.9-14(2) 保全すべき種の予測結果 (ミズワラビ)

項目	内容				
主な生育環境	稲刈り跡の水田や畦、土壌水位の高い放棄水田等で見られる。				
	予測地域 (ha)	1.5	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の水田の畔 2 箇所で見つかり、計 17 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	17 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたミズワラビは 17 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、水田や畦、土壌水位の高い放棄水田等であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置

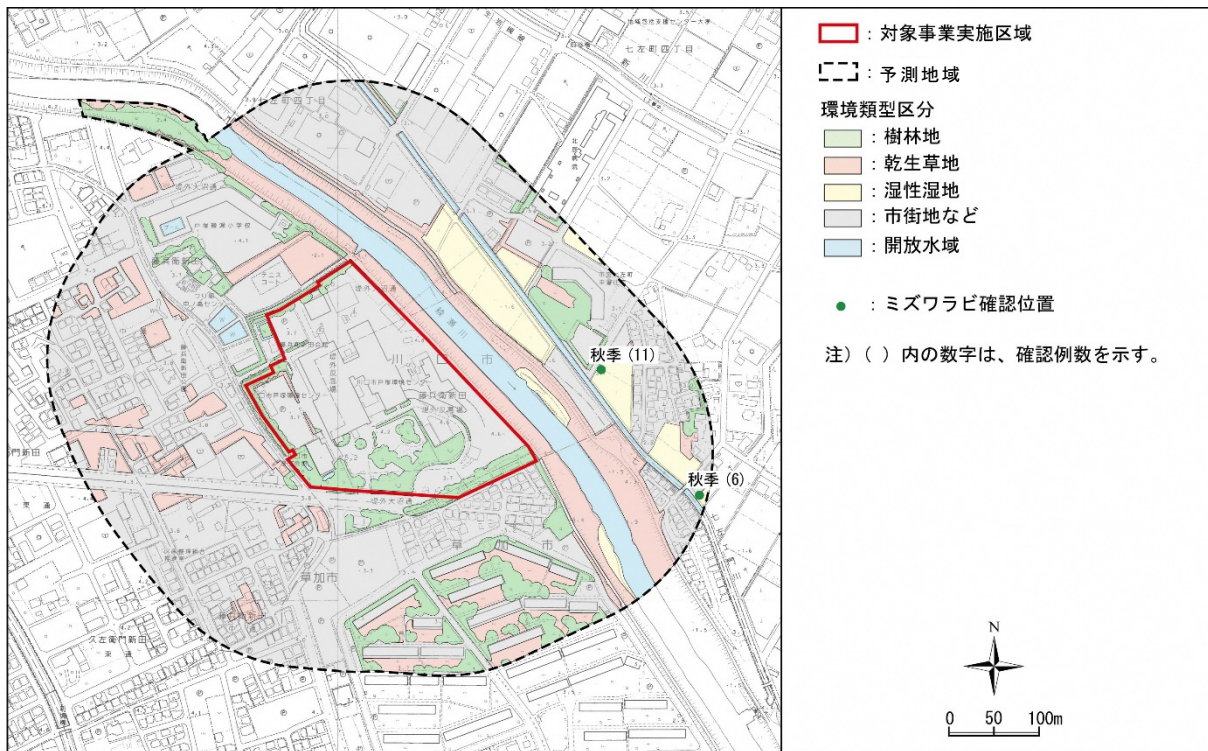


表 9.9-14(3) 保全すべき種の予測結果 (シロバナサクラタデ)

項目	内容				
主な生育環境	低地の日当たりのよい水辺に生育する。				
	予測地域 (ha)	5.8	対象区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川の河川敷で 5 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	5 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域周辺で確認されたシロバナサクラタデは 5 例で、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、生育地は残される。</p> <p>本種の主な生育環境は、低地の日当たりのよい水辺であり、対象事業実施区域内にこのような環境はないことから、事業の実施に伴う変更等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により光環境の変化による間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は極めて小さいと考えられる。なお、濁水による生育環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生育環境の改変による影響、及び生育環境への間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p>				

確認位置

